「三月子の魂十五まで」

中学二年　Y・H

私はこの夏、福島県に住む祖母の家を訪ねた。いつも祖母の家に行くのは楽しみだったが、今回はいつも以上に私はワクワクしていた。その理由は、「猫」だった。

祖母は今年の春、猫を飼い始めた。ハルという名前の雄猫で、やって来た時は生後二か月だった。その話を聞いた私は、動画や写真を見て、いかにも子猫らしい可愛い姿を想像し、喜んでくれそうなおもちゃやおやつを買いそろえた。五時間かけて福島へ。いざ祖母の家に入ってみると、居間で寝ていたり、祖母にくっついて歩いている姿を想像していた猫はどこにもなかった。

ハルと祖母との出会いは、福島県三春町で行われていた譲渡会だった。譲渡会とは、保健所や動物愛護団体などで保護されている動物の、新たな飼い主を探す会のことである。里親を希望する人が、動物たちとふれあいながら家に迎える動物を探すことが出来るような仕組みになっている。ハルは、兄弟と段ボール箱に入れられて、捨てられていたところを保護され、今回の譲渡会で里親を探していたのだそうだ。

祖母が活用した譲渡会のことを知った私は、捨て猫がどのような経緯で保護されるのかを調べることにした。それには、大きく分けて二つの種類があるという。まず一つ目は、飼い主の何らかの理由によって飼育が不可能になり、自ら連れてくるものだ。「家族の中で猫アレルギーが出た」、「引っ越すことになったが、引っ越し先がペットの飼えない家だった」、「飼い主の高齢化で世話が出来なくなった」などが主な理由である。おそらくハルも、これらの理由で飼い主が世話をしきれなくなって捨てられてしまったのだろう。また、兄弟で捨てられていたそうなので、飼っていた猫が沢山子どもを産んでしまって飼いきれなくなったという理由も考えられる。このような猫は、平成二十八年度に、全国で一万一千六十一匹も保護された。二つ目は、一般的に捨て猫や野良猫といわれている所有者不明

の猫たちだ。その猫たちは、先ほどの理由により飼い主が飼育できなくなり、飼育放棄や遺棄をしたことで、捨て猫や野良猫となった。その子どもたちも野良猫となる場合が多い。このような猫は、先ほどの五倍を超える六万一千五百六十三匹も保護された。近年、引っ越しなどの安易な理由による引き取りを許可しない保健所や団体が増えてきて、引き取り数は年々減少しているそうだ。その一方で、猫を引き取ってもらえなかった人が、遺棄する事によって捨て猫や野良猫が増えるのではないかという心配の声も上がっている。

続いて、その保護された猫たちについてだ。捨て猫として保護されていた迷い猫が飼い主の元に返されることを「返還」、保護された所有者不明の猫が新しい家族の元へ行くことを「譲渡」と呼んでいる。返還・譲渡率は平成十八年から急激に増加し始め、今も毎年増加し続けている。私は、保護された猫というと、檻の中でおびえて威嚇をしているイメージがある。きっとそう思っている人は多いだろう。その猫を自分の家で飼うとなると、「凶暴なのではないか」、「なつかないのではないか」など、さらに抵抗感を感じると思う。実際、ハルがそうだった。私が祖母の家に行った時、ハルは直前まで居間で遊んでいたのに、入った瞬間光のような速さで走っていき、どこかに隠れてしまった。後で聞いてみると、ハルは祖母以外の人が家に入ってきたときは隠れてしまうそうだ。返還・譲渡率が上昇しているのは良いことだが、貰われてきた猫の一匹一匹の現実は、それほど甘くはない。そう思い知った。

「どうしたらハルともっと仲良くなれるだろうか。」私は弟と相談しながら、どうやったらハルがなついてくれるか、いくつか実験をしてみた。まず、廊下にエサやおもちゃを置いた。エサを食べてくれなかったし、おもちゃも一切触れていないようだった。足音や鳴き声も一切聞こえなかった。祖母とはいつも、おもちゃで遊んだり、一緒に寝たりしているそうなので、私たちをとても警戒していることは明らかだった。その状態が数日間続き、次の実験へうつった。それは、祖母の声を録音して、その音声を流しながらハルのいる部

屋へ行くというものだった。しばらく流していると、ガタガタッという物音がした。やっと姿が見られるかもしれないと期待を膨らませていると、ハルが障子の影からがひょこっと顔を出した。その姿は、とても可愛くて抱きしめたくなるような愛くるしさだった。そのあと私の気配を感じ、すぐまた逃げてしまった。しかし、ハルが顔を出してくれただけでも大きな進歩だった。その後は、みんなが寝静まった後に祖母以外の人の様子を見に来たり、追いかけなければ近くにいても逃げなくはなった。

五日間の実験を踏まえて、ハルがなぜ祖母以外の人になつきにくくなったのかを考えるために、様々なものを調べてみた。猫の生態について詳しく書かれているホームページiiを見てみると、猫の性格は生後三か月でほぼ完成すると書いてあった。誰になつくかも含めてだそうだ。私たちがハルに初めて会ったのは生後四ヶ月弱のときだった。ハルは、必ずしも捨てられる前に飼い主から何らかの虐待を受けていたとは限らないが、保護される時に強引に捕まえられた可能性もある。ゆえに、自分を追いかけてくる人間への恐怖心は当然抱いているだろう。また、ハルが祖母の家に来てから私たちに会うまでは、ほぼ祖母とハルとの二人きりの生活であったらしい。そのため、ハルは三か月までに、人間への不信感を持ちつつ、祖母にだけ心を開く性格を築いていたのではと考えた。

その話を父にしてみたら、心理学に関する一冊の本iiを紹介された。その本から私は、猫の生後三か月は人間の生後三年にあたるのではないかと考えた。人間は、生後三年までに繰り返し無視されたりいじめられたりすると、性格の底に心の傷つきを抱えてしまうそうだ。それが、将来の性格形成にマイナスの大きな影響を与えてしまうという。そのような人でも、長い長い時間をかけて愛情を注いでくれる人がいれば、性格を良い方向に変えられる可能性があると書いてあった。

たった五日間ではあったが、ハルが、祖母以外の私たちになつく兆しが見えた。これから長い年月をかけてハルに愛情を注いでいけ

ば、祖母以外の人間への信頼を取り戻せるのではないかと思った。

今回のことから、生まれてからの最初の時期の意味の大きさを痛感した。「三つ子の魂は百まで」という言葉があるが、猫の場合は、「三月子の魂十五（猫の平均寿命）まで」であろうか。捨て猫を減らす社会の努力がなされていることは非常に良いことだが、やはり、動物を飼う責任は重いと思った。「時間と愛情」をかける覚悟が、何より捨て猫対策の一番の鍵になるだろう。そして、情報や物があふれる中で、人間同士が傷つけ合う事件の多い今、人間こそ、「時間と愛情」をかける意味を再確認するべきである。それが、ハルから学んだ一番のことだ。

---

i 環境省ホームページ　犬・猫の引取り及び負傷動物の収容数

ii iと同じ

iii ホームページ　猫の飼い方が丸わかり教科書『猫勉』

iv 小谷英文（二〇十八）「精神分析的システムズ心理療法―人は変われる―」　パス心理教育研究所出版部